

先生の笑顔と視線が決め手

人は人と対面するとき、言葉を使う「言語的コミュニケーション」と、言葉以外の「非言語的コミュニケーション」の二つを同時に使っています。なんとなく言語的コミュニケーションが主となると思いがやすいのですが、情報の七割は、しぐさや身振り、声のトーンなどの非言語的な方法で伝えられています。にっこりしているか、むっとしているか、そっぽを向いているか、相手の目を見ているか、そんな表情やしぐさなどは、言語の二倍以上の情報を伝えることができます。

これから分かることは、先生方のちょっとした表情やしぐさが、子供たちに大きな影響を与えているということです。子供たちは、家族と一緒に過ごす時間よりも先生や友達と過ごす時間の方がはるかに長いのです。子供たちとのよりスムーズなコミュニケーションができるようになるには、先生の笑顔と視線が決め手になります。

毎日の第一印象は特に大事。それは最初の三秒から六秒で決まります。無表情は不愉快な印象を与えますが、にっこり笑うだけで温かく楽しい印象にガラリと変わります。毎朝、一分間、鏡の前で笑顔をつくる練習をしてから教室に行ってください。きっとその日一日、子供たちも、先生も、気分よくすてきな気持ちで生活することができるはずです。私たちは、仕事や日々の生活に追われているとつい笑顔を忘れがちになりますが、そんなときこそ笑顔が大事なのです。

実践躬行（きゅうこう）。言うだけでなく自ら掃除機を片手にバタバタとスリッパの音をたて校舎内外を回りながら、子供たちや教職員に笑顔で語りかけておられた校長先生の姿が、今も心に残っています。